

(A5) 判本文篇六〇四頁 地図大判一枚 昭和
三十九年八月 史料篇四六一頁 昭和三十九年
四月 寫書房發売 定價計五、五〇〇円)
(熱田 公)

和泉市史 第一卷

和泉市は旧泉北郡二町七村の合併になる
市で、中心部の旧和泉町は和泉国府の所在
地であった。本書は市制十周年記念事業と
して成ったもので、和泉市の現況ならびに
環境を序編でまとめ、本編として原始社会
・古代社会・中世社会を扱い、近世社会は
第二巻として近刊の予定である。うち、原
始社会と古代社会の古墳・窯業関係を森浩
一氏が執筆された他はすべて、専門委員と
して五年間常勤して編纂にあたった三浦圭
一氏が構成から執筆まで担当されている。
その内容に関しては市史編纂委員は一切制
肘せず、三浦氏の自主性に委ねられたとの
ことである。このことは地方編纂にあって
は当然保障されるべきことではあるが、学問
研究と地方住民の生活との正しい結合を進
める上で一つの成果として確認されねばな
らないだろう。

さて内容について略記しておく、第一
章原始社会では池上弥生遺跡の調査がくわ
しく、第二章古代社会では、第一節「日本
列島と日本人の起源」で著名な黄金塚や八
五にのぼる信太千塚の群集墳以下の古墳の
紹介があり興味深い、今一つこれら市域
の古墳の分布図があれば、次の古代豪族の
蟠居の紹介部分、第二節「大和朝廷の和泉
進出」とあわせて社会発展の第一歩の様相
がもっとわかりやすくなったであろう。第
三節「大化改新」では奈良制遺構の復元を
行い、第四節「奈良時代」で和泉国の河内
国よりの分離成立の事情と国府と国分寺の
説明から農民生活・土地私有の発生・行基
の活躍に及んでいる。以下各節は政治・経
済・社会・文化の各ジャンルにわたり、関
係史料を駆使した詳細な記述が行われてい
る。第五節「平安時代(前期)」までを古代
社会として章別してあるのも本書の特徴で
ある。

第三章中世社会以下は三浦氏の専門のフ
ールドであるだけに読みごたえがあり、
本書の中心部分をなしていることはいずれ
またない。何分にも関連事項を網羅する形
の市史であるため、つっこんだ議論はさげ

ているが、氏は本章に関係する問題のいく
つかは研究論文として世に問うているので、
あわせ読むにも有益である。第一節「平安
時代(後期)」ではとくに泉大津の木屋をめ
ぐる国衙機構の問題と池田郷の田堵層の田
地争論より名田の起源と領作の権利の実態
を分析した部分が印象的である。第二節「鎌
倉時代」では地頭一覧表が掲げられ今後の
研究に裨益するところ多く、谷山池・梨子
本池等の築造と池田谷・松尾谷開発や土豪
の悪党化の部分は、氏の「中世における農
業技術の階級的性格」(『日本史研究』八二)で
門田苗代を軸とする農業生産力向上の問題
として発展させられている。

第三節「南北朝時代」では、内乱期の在
地の土豪・寺院の動向、前記三浦氏論文で
闡説した農村動向に直接続く問題となる唐
国村と春木本庄の境相論、黒鳥の麴座、大
念仏本尊仏の廻在等の問題が述べられてい
る。第四節「室町時代」では近來学界で注
目されて来った和泉国半守護体制の問題か
ら説きおこし、荘園制の衰退・鄉村制の発
達・民衆文化の発展に及んでおり、『政基
公旅引付』に躍如たる近郷の日根野庄の様
相と同一の畿内村落の雰囲気うかがわせ

学界消息

るが、当地域の実態を示す史料が見当らないため、日根野で分析しうる以上の具体像を得られなかったのは残念である。松尾寺の相伝する和泉国惣講師職なるものの存在は非常に興味深く、本書で扱いた所ではすでに得分権化しているようだが、この問題は前述した大念仏本尊廻在や次の第五節「戦国時代」でふれている惣長者、さらには国衙や守護体制の問題とか渡辺党の惣管職の問題とも関連させて、今後和泉一國規模の分業形態の問題として深めていく素材となろう。

最後になったが、本書の後半部分の三百六十頁余が史料編となっており、約五十点の松尾寺文書をはじめ公卿日記から在地文書まで本編の典拠となった史料を収録しており、学界に裨益するところ大である。あらためて三浦氏の労に感謝して筆をおくこととする。

(A5判七三七頁 昭和四〇年一月 大阪府和泉市役所発行)

(村田修三)

日本地理学会 一九六六年度春季大会

四月一日～三日 研究発表

四月四日～六日 巡検

於、立正大学文学部

〈会長講演〉

日本における地誌の伝統とその思想的背景 石田龍次郎

〈研究発表〉

会津盆地における水田裏作

菅平の娯恋の高冷野菜

甲府盆地西部地域の温室園芸

関東における養鶏業の発展

さく河性サケ・マス漁獲量の地現的意義

最近の本邦における木炭生産地の変貌 千葉 徳爾

四国地方の製炭類型 福宿 光一

わが国におけるスギのさし木地域 篠原 重則

三重県を除く沿海地域における真珠の養殖の展開(第三報) 小栗 宏

強盗島・諸島の地図について 木村東一郎

香港における消費生活条件の特質 横山 昭市

アメリカにおける Residential Community の形成 相馬 正胤

英国ニュータウンの採来 井内 昇

アメリカ都市におけるマイノリティーグループ

プの生熊 二神 弘

北、西ドイツ Paderborn 台地上の農村とその構造変化 浮田 典良

遠州灘沿岸西部における海浜堆積物について 山内 秀夫

静岡県三保半島における海浜変動 中山正民その他

南薩台地縁の海蝕地形について 高橋 達郎

種子島の海岸段丘 中田 高

兵庫県大塩沿岸水域の底質の粒径分布について 井口正男・高村弘毅・原 昭宏

日本海の海底地形構造 茂木昭夫・川上喜代四

日本海 of 海底底について 川上喜代四・茂木昭夫

大洋水深総図の海底地形の地名 松崎卓一・川上喜代四

沖永良部島に於ける集落の屋敷名による考察 山口弥一郎

磐城の村落構成とマツリ 高木 秀樹

近世前期の塙在家―大磯丘陵北西地域の場合 浅香 幸雄

吉野川下流平野における糸里の復原的研究 服部 昌之

高須輪中における株井戸の歴史地理的考察 松原 義継

和泉地方における耕地整理・土地区画整理区 大越 勝秋

神通川水系の電源開発の経過とその特性 北林 吉弘